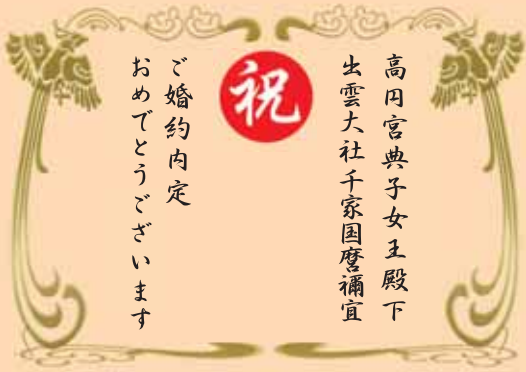




発行：玉置神社
発行人：弓場 季彦
TEL 0746-64-0500
FAX 0746-64-0429

8月8日 大日堂社大祭
10月24日 秋の例祭



出雲大社 玉置教会例祭

皐月の例祭が大賑わい！

玉置教会例祭が

5月14日斎行されました。

3月22日に祖霊祭、5月14日には例祭を斎行。いずれも改めての取り組み。祖霊祭では女性神職が舞を奉納。例祭はホームページ等で参拝のご案内。餅まきも試みた。

明治の時代に全村民が出雲大社教に入会。十津川の歴史と共に歩んできた経緯。祖霊祭と例祭の相違など玉置教会弓場教会長が説明、うなずきながら聞いておられる参拝者もあり、この例祭では稀にみるほどの参拝者でにぎわいを見せた。

大国主命もご先祖の御霊もさぞやお喜びいただいたと思います。



平成26年 出雲大社 玉置教会例祭

出雲大社玉置教会例祭を一部改め、関係者にも呼びかけて執り行われました。餅まきも歓声上がり、盛り上がる。



玉置教会ご神殿に向け参進



神職の玉串持礼



餅まきも大盛況

片岡八郎公慰霊祭 5月20日

南北朝時代大塔宮護良親王に従い十津川に逃れてきた主従は、玉置山で賊徒に行く手をはばまれ片岡八郎公は一行と別れてただ一人で立ち向い討ち死にしました。



その場所を通る人々は、公の忠節を偲び山中の花を折って供えいつしかそこは花折塚と呼ばれるようになりました。片岡八郎公は現・王寺町の出身で王寺町片岡八郎公顕彰会が例年参拝し慰霊祭を斎行されており本年は晴天にも恵まれ花折塚で約20名の参加者のもと執り行われました。

玉置神社社務所の棟札と謎の棟梁 墨書で残された「寺尾長太夫」

国の重要文化財・玉置神社社務所は、聖護院別当坊高牟婁院(たかむろいん)の主殿として江戸期文化元年(1804)に建てられた。

風格ある書院造り。南北2列10室の間仕切り杉戸あるいは杉板壁、襖(ふすま)障子には、極彩色花鳥図が描かれている。狩野派絵師の筆による華麗な文化遺産で、訪れた人は誰もが息をのむ。

この主殿の棟札(むなふだ)が先日、見つかった昭和63年1月、社務所は重要文化財に指定されたが、その指定にむけて県教委と文化庁が事前の合同調査を行い、同62年9月、棟木に打ち付けられた棟札を発見した。

棟札には、工事由緒、建築年月、工匠名などが記される。これによって「文化元年」建築の明白な履歴が判明、重要文化財指定の決め手となった。

ところが、この棟札の所在が不明だったのだ。新しい官司の指示で、文化遺産の重要性を神社全体で再認識する一環から調査、整理したところ、ある場所から埃まみれで見つかった。もし、粗野がまかり通っていたなら廃棄処分されたいたかもしれない。

冷や汗もの生還劇だったのだ。棟札は、総高154㎝、上下幅39㎝、厚さ3㎝、檜(ひのき)製。附(つけたり)指定されており、重要文化財と同等の価値を持つ。

墨書の中に、「大工棟梁折立村寺尾長太夫」の名が残る。(注)墨書の消失を防ごうとしたのか、棟札の一部に刻み込みがあるのが、誠に惜しい。文化財に勝手に手を加えてはならないのに)

私は、偶然の幸運に恵まれ、その大工棟梁の直系子孫にお会いできた。棟札発見と直系血族との出会い・・・この不思議な同時進行。玉置の神々の粋な演出だったのか、と今、思う。

棟梁の直系子孫に会えた

奈良市に住む寺尾眞(まこと)さん(81歳)、寺尾友豪(ともひで)さん(74歳)の兄弟。眞さんは棟梁の直系8代目に当たるといふ。



左・寺尾 眞さん 右・寺尾 友豪さん

星を付けて奈良の父に知らせてくれたようです」と言い伝えがあり、棟札の墨書を見て、言い伝えはホンマやつたんや、と喜んだものです。

長太夫は、十津川村大字折立山崎に住み、玉置山上の仕事場まで歩いて往復したのだろう。子孫は山崎の家をずっと暮らしていたが、50年程前、寺尾家はそこを売り(注)その後転売され、現在は企業の営業所)を、奈良に引越した。

「長太夫以降、宮大工を継いだものは家にはいませんが、山崎の家で古い大工道具がたくさんあったのを覚えています」。その大工道具も今は1つも無く、関係資料も皆無だ。謎の人物・寺尾長太夫の「存在」を示すものは、棟札に書かれた墨の「名前5文字」だけである。

「代々、無料たるべきこと」

眞さんたちの祖父は、僕物だったらしい。十津川村に発電所をつくり、奈良に次いで十津川に電灯が灯った。行商が来たら売れ残りを全て買い取り、近所に配った。

そして、極めつけは、玉置山の水源から集落まで水道を引き、水源には「代々、無料たるべきこと」と刻んだ石を据えたという。公に奉仕する尊さ、十津川人としての誇り高きスピリット。「代々、無料たるべきこと」・・・何と清々(すがすが)しい言葉の響きだろうか。

棟梁寺尾長太夫―その面影は直系8代目子孫の写真から偲んでいただきたい。その卓越した匠(たくみ)の技と心意気は210年後の今も、社務所の諸処に生きています。

(元読売新聞社会部記者 水野成之)

玉置よもやまばなし (1) 人は環境によって育ちます。その環境は、人がつくりまします。とよく言われます。環境とは家庭・会社でその中で人は育つのです。環境は心を育てること、人格を育てること、人間力を切磋琢磨すること、これらがないがしろにしては人が育たない。人が明るく楽しく、元氣よく育つ環境には、真心や愛や絆が必要です。心からの言葉は心に響き、人が育ちます。皆様にも玉置神社に参拝されて、今ひとつ心を見つめ直してはいかがですか。

玉置山文化サロン

OSK日本歌劇団

トップ桜花昇ぼるさんは何如へ

今年で創立92年目を迎えるOSK日本歌劇団。トップの桜花昇ぼるさんは奈良県出身。玉置神社へもご参拝されたこともありましたね。大阪松竹座での公演は今回が最後。千秋楽の5月25日昼の部、夜の部ぶつ通し観劇。胸に迫るものあり。トップとしてのご苦労もさりながら、拠点のあやめ池での公演打ち切れ、消滅寸前のOSKを団員の皆さんと存続への署名活動。

小さな劇場でOSKの灯を消すことなく公演活動続けてこられた。経営母体も二転三転か。修羅場の数々。

「やまない雨はなし 明けない夜はなし」。大阪松竹座、京都南座で定例の公演へとOSKは不死鳥の如く復活。

小学生からのファンとしては嬉しかったね、でもね、かつては本拠地であったあやめ池を常設劇場として全国へ発信されることを願ってもしました。大阪に戻っていささか残念という思いもありましたね。文化は地域で大事に育て続けていかなければなりませんね。

福井県の武生での公演はすっかり地域の文化になつていますね。さてさて桜花昇ぼるさんというでっかい花が駆け抜けていきますが後に残る団員の皆さんの不滅の力を信じたいね。

OSKよ永遠なれ！
桜花昇ぼるさんありがとうございます。

玉置神社奉仕と雑感

玉置神社参与 青山 孝

平成二十四年の大晦日をもって「榎原神宮」を体調の都合で退職し、永年お勤めして来た此の身体を休める為に、此からは好きな山登りや旅行をしながら体調を整えて行くこうと考へ、しばらくゆつくりした時間を過ごし乍ら日々が過ぎて行きました。

平成二十五年の三月ある日の事でした。玉置神社弓場宮司様(弓場宮司さんと私は榎原神宮に奉職時に御縁を頂き、お会いする機会も増え昵懇にお付き合いをさせて頂いてた間柄)から、「青山さんの力を借りたい」とのお話があり、話をお聞きしたら、玉置神社で祭式(神職の行事作法)指導や雅楽(龍笛)の稽古を職員にさせて頂いてくれないかと言う内容であった。私は弓場宮司の頼みであれば喜んで御奉仕させて頂きますと返事した。実は私は神社界から離れた者としても神社からは縁がなくなるだろうと思っていた。しかしそうでも無かった。玉置神社のお話の他、大阪の友人からも助けて欲しいと依頼もあり、神様から御縁を頂いた思いで有り難かった。

平成二十五年四月八日・九日と一泊二日で玉置神社で第一回目の祭式指導と雅楽教室をさせて頂いた。永年の神社奉仕で全国の神社も数多く参拝させて頂いているのであるが、玉置神社は違った。神社に到着し初めて御神域に入ると今迄には感じなかった独特の雰囲気と空気があった。参道を歩くにつれて三千年の杉の巨木と標高一千以上に鎮座している御社殿を拝し何とも言えない心洗われた気持ちも今も思い出す。弓場宮司からは一ヶ月から二ヶ月に一回程度続けて来て欲しいと頼まれた。

そうこうして一年が経とうとしたある日、弓場宮司から玉置神社の一年間の神事・祭典に関して整備と指導をお願いしたいとの依頼があり、これも快く承諾させて頂いた。一千日に鎮座している玉置神社が抱える問題点や神事・祭典を実際に御奉仕を通して、弓場宮司と共に正して行く事が、今迄お世話になった神社界に対して私が出来るお礼の気持ちであった。今は玉置神社での日々の御奉仕を続ける中で少しずつ進め始めたところである。

最後に玉置神社の大神様の御神威の発揚と感謝を心がけながら今感じる雑感としたい。

(二元 奈良県神社庁祭式講師)

ライアー奉納演奏 5月5日

シヤクナゲも5分咲き、昨日5月4日は700名余りの参拝者で大賑わい。雨の5月5日は池末みゆきさんがライアーで演奏奉納。胸をかきむしられるような名状し難い音色。何故か涙ぐむ。



池末さんは30年前に玉置神社へ参拝されとても不思議なご経験もされた由。このたび30年の時空を超えて参拝。奉納用の衣裳に改めて奉納演奏。一般の参拝者の方々も足を止め、暫し癒しの時間。寂として声もなし。玉置の神々も愛で見聞こし召されたでしょう。

御礼

玉置神社の石楠花の花殻摘みが無事終了致しました。ご協力戴きました関係各位、ボランティアの方々へ心より御礼申し上げます。



世界遺産・源泉かけ流し 10周年記念



初心者向け
鮎 友釣り体験
7月26日(土)
鮎友釣り・鮎つかみ体験

十津川村観光協会

奈良県吉野郡十津川村小原315-1
TEL 0746-63-0200



防犯の窓 (6) (奈良県五條警察署十津川警察庁舎)

5月中に十津川村で発生した事案です。

最近多く見られる「もうけ話」詐欺の手口

- 「電話でお金の話」があれば、詐欺を疑ってください。
- どんな投資にもリスクが伴います。必ずもうかる投資なんて、ありません！
- 「あなたにしか投資の権利がない」「投資しないなら、名義を貸して。迷惑はかからない。謝礼もする」という電話があれば、詐欺です！(あとで「名義貸しは犯罪」と言って、違約金等を求める)手口です！

- ① 実在する企業（一般企業や証券会社等）の名前を使い、信用させる。
- ② 流行している事業を持ち出し、興味を引く 「iPS細胞」「東京オリンピック」関連（協賛）企業「クリーンエネルギー（太陽光パネル）開発企業
- ③ ゆうパック・レターパックでの現金送付依頼は100%振り込め詐欺です。



シャクナゲの花から摘みをする 観光協会のメンバーやボランティアの皆さん



無事に終了するよう作業前に安全祈願

シャクナゲの花さん今年もありがとう！
今年もにぎやかに花を咲かせてくれたシャクナゲさん。来年も装いも新たにまた見事な花を咲かせてくれますよう花のシーズンが終わると花がら摘みを行います。この大事な作業を毎年十津川村観光協会(会長 田花 敏郎氏)の呼びかけでお集まりいただいた皆さんが取り組んでくれています。6月10日日本殿前で修祓、会長が代表で思いを込めて玉串奉奠。一斉に作業開始。玉置山全山に明るく気力あふれた声・笑いが飛び交っていました。長時間にわたる作業完了するとシャクナゲの木もサツパリと気持ちよさそうでした。来年も巡り来るシャクナゲの花さんたちとの出会いが今から楽しみです。皆様誠にありがとうございました。

神社日誌抄	
3月26日	・シエスタ山コーディネーター中山美穂様グループ3名が参拝、ドイツハイデルベルグ在住のドイツ人2名を伴い来社
4月2日	・パイオトイレ設置準備の為、榎瀧澤、後木工務店計3名が来社
4月3日	・交通安全キャラクターグッズ祈願の為、十津川警察庁舎村田所長他1名及びこだまの里代表他3名が来社
4月10日	・熊野高野国際観光(代表東棟他3名)が来社
4月18日	・宮内流生け花家元 宮内住江氏他2名が正式参拝の為来社
4月19日	・NPO法人奈良まほろばソムリエの会 鈴木英一氏、吉澤定之氏来社 村史跡指定文化財について説明
4月20日	・顧問税理士来社、決算・予算・及び会計等の検討会を開く
4月22日	・(株)アド近鉄銭谷氏一行来社、奈良観光ガイドブック「知れば知るほど奈良はおもしろい」表紙掲載写真(神代杉)の撮影
4月25日	・和歌山県有田市の八木龍王(嶋田氏)一行38名が来社
4月26日	・茶屋(宿坊)にパイオトイレ2基設置、安全確認データー収集開始
4月27日	・氏子総代の皆さんや宮司及び責任役員並びに顧問税理士による氏子総代会が開催されました
4月27日	・和歌山県的那智山青岸渡寺の高木副住職一行70名が来社されました
5月3日	・愛須次郎ダイワ鉄工所代表一行が正式参拝され、賽銭箱奉納祭が本殿にて執り行われました
5月4日	・大神神社神徳会20数名参拝
5月4日	・天龍道場一行参拝
5月5日	・シエスタ山コーディネーター中山美穂様グループ7名が参拝
5月5日	・池末みゆき様一行11名来社 ライアー奉納演奏される
5月9日	・近畿管区警察局奈良県情報通信部木下雅之部長他2名が宮司に挨拶の為来社
5月14日	・出雲大社玉置教会例祭を一部改め、関係者にも呼びかけて執り行われました
5月16日	・巨樹の樹勢回復現場調査の為清原造園の清原利一氏が来社
5月19日	・シエスタ山コーディネーター中山美穂様グループ10名が参拝
5月20日	・片岡八郎公慰霊祭に20名が参加、花折塚にて齋行
5月22日	・元国会議員の玉置公良氏が「いいものさがし探検隊たくくん」MT企画のメンバー20数名を同行し参拝
5月29日	・三井寺(園城寺)一行22名が参籠
6月1日	・文化庁竹内調査官、奈良県文化財保存課田中氏と吉岡氏が社務所などの調査を行う
6月1日	・出雲大社玉置教会月次祭齋行。高宮宮典子女王殿下・出雲大社千家園藤瀬宜のご婚約内定祝意奏上
6月10日	・観光協会(田花敏郎会長)一行17名が恒例のシャクナゲの花がら摘みを行う

弓神楽実技



神社の正しい参拝・作法等講義

神社で一日神子(みこ)体験

平成26年6月7日

玉置神社には古くから伝わる弓神楽という特有の神楽がある。白い弓をもって巫女の衣裳を身につけた男性の神子が舞楽を奉ずる。この神楽に関心を持たれる方々も多く、このたび初めて神子体験を企画した。

募集の人員をオーバーする申し込みがあり、ありがとうございました。当日は飛び込みでの申し込みを試みる方、見学に来られた方々もあり賑わった。メニューは弓神楽の体験だけでなく神社の正しい参拝、作法、神子装束着装、正式参拝、食作法等のほか玉置神社の由緒等の説明など盛りだくさんで参加者も懸命、見学者の皆さんも興味津々で濃密な時間を過ごされたようでした。(神楽体験はこれほど丁寧に教えていただき感激、その他の体験も未知の世界へ誘っていただいた心地、大変有意義でした、今回の企画はこれからも続けていきたい、日帰りの体験には玉置神社は遠すぎる、一泊での企画を望む)などの意見をいただきました。参考にさせていただきます。

実技講師より弓神楽の説明



玉置神社の歴史講座



霧の中、一日神子体験を終え記念の一枚



みなさまへ奉賛金ご協力をお願い

玉置神社創始より二千余年、現在神社は始まって以来ともいえる危機に瀕しております。神社では老朽化が進む建物・樹木につきましては毎年、一歩一歩ではありますが修復や保護対策を施してまいりました。

しかしながら近年の異常気象が拍車をかけたのか、今回専門家の調査によりほぼすべての建物において大規模な工事着工が急がれる、更には御神木のうち何本かもいつ倒れるか予断を許さない状況であることが判明しました。

神社の象徴でもある樹齢三千年の巨木たちは空洞化が進み、文化元年(1804)に建立された、国の重要文化財の社務所は傾き著しく、江戸中期に狩野派の手によって描かれた襖絵はいたるところ剥がれ落ち、悲鳴をあげています。

この危機的状況を神社のみの経済力では到底乗り越えることができません。つきましては、対策の一環といたしまして皆様からの奉賛金(一口五千元)を受け付けております。

お納めいただいた奉賛金は玉置神社守護維持のために大切に使用させていただきますので、何卒趣旨をご理解の上、皆様のお力添えとご協力を切に願っております。

なお、現在自然環境保護と参拝者様がより快適に使用していただける様、環境配備型のトイレ設置に向け、準備を進めています。こちらの方にも是非ご賛同とご協力の程を賜りたく重ねて宜しくお願ひ申し上げます。

玉置神社
玉置神社崇敬会

振込先は左記迄お願いします
郵便振替口座 009300121309315